里山アート展13

「アートと生活」

〜こころに感動を見つける〜

第13回里山アート展

THE 13TH SATOYAMA ART EXHIBITION
[Art frontier]

今年も里山アート展のテーマは「アートと生活」であります。あるもので、素人でも創造して作品を作る。そこに参加し、制作する醍醐味が楽しい。

今年、それまでアートを制作したことのない方が、我が家を訪れて、制作に少し関わりました。良く解らないが、創造することが、何だか楽しそうと言いました。

極端に言えば、目の前にある石ころ一つでも作品にしてしまう。その創造力を楽しむことが楽しい。その創造性は、作品を作ることのみに限定するものではなく、生き方を創造する。実人生の脚本を作り、演出することにつながるのではないかと思います。

豊実の地は、観光地ではなく、過疎で人も少ない。何もないところと嘆くのではなく、あるものを生かす力があればいい。ないというのではなく、創造によって生活を豊かにすればいいと思う。今年で里山アート展は13年目になりますが、ますます豊かに生きる創造性を養成することが大切だと思えてなりません。

里山アート展の開催には、経費も必要だと身をもって知る一人ですが、地方創生と言われる今日、経済効果ばかりではなく、豊かに暮らすとはどういうことなのかを論じなければなりません。

私は今年の日本橋高島屋の個展におきまして、「我、唯足るを知る」という作品を作りました。その観点から、里山アート展も開催いたします。まさしく、「足るを知る」生き方が世界中の人びとに必要なことではないかと思います。その観点から、第13回目の里山アート展をご覧いただけたら幸いであります。

佐藤賢太郎

第13回里山アート展 概要

[会　期] 2016年10月1日(土)〜10月22日(土)
※最終日は午後4時まで

[会　場] 新潟県東蒲原郡阿賀町豊実(とよみ)
〈いのちの田圃〉

[イベント] 『モロッコフェスティバル』会場：和彩館[豊実]
10月1日(土)〜10月10日(祝・月)

『地域活性化シンポジウム』会場：狐の嫁入り屋敷[津川]
10月23日(日)　午前9時▷午後1時

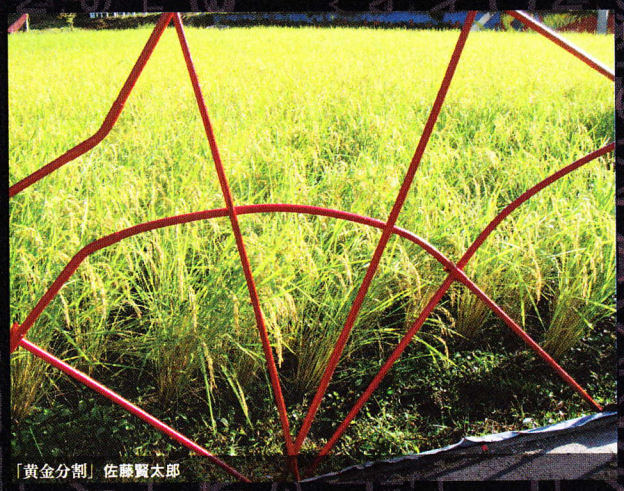
FRONTIER
THE 13TH SATOYAMA ART EXHIBITION

「夢を見つめる」桐山士郎

「シマウマ」森　紘一

「毛やり」佐藤賢太郎

「バランス」鈴木隆雄

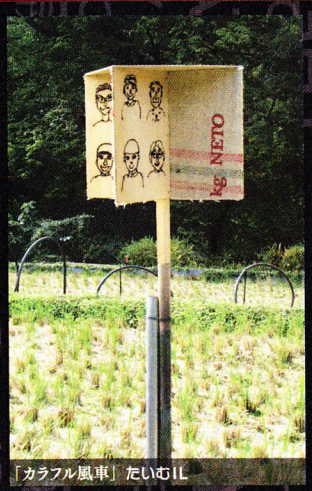

「黄金分割」佐藤賢太郎

「ピアノ」大塚秀夫

「風景が見える窓」大塚秀夫

「ミーティング」長田良夫

第13回里山アート展［作品一覧］



「カラフル風車」たいむIL

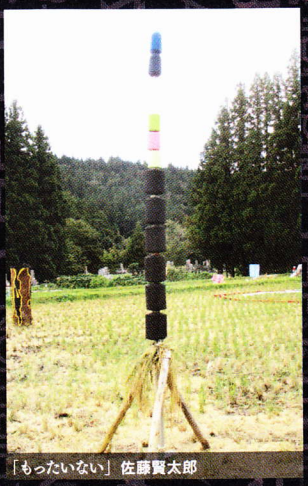
「顔&かお」わーくIL

「守った親」佐藤賢太郎

「台風の目」大塚秀夫

「赤いトンネル」佐藤賢太郎

「竜神の舞」大内冨士枝

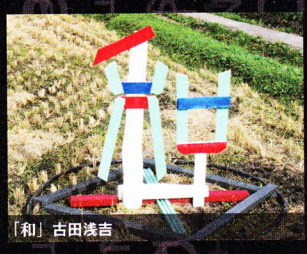

「もったいない」佐藤賢太郎

「白蛇の通り道」渡辺美紀

「肩を寄せる」大野賢二

「それでいいんだよ」田井さゆみ

「音のするハサミ」飯野直樹


「和」古田浅吉

「コーヒースマイル」ルートIL

「希望」間地紀以子

「発電しよう」斎藤春夫

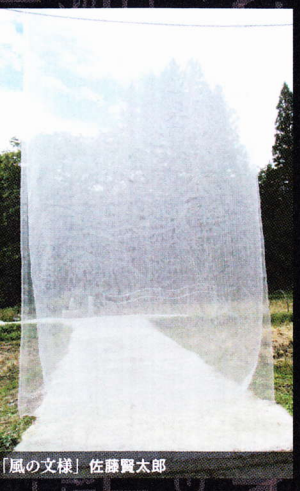
「出会い」萩谷　恵

「ストライプ」荻原正江

「春夏秋冬」町立日出谷小学校

「豊実の想い出」モーリー

「ブランコ」佐藤賢太郎


「風の文様」佐藤賢太郎

「虚無僧」佐藤賢太郎

「赤と白」佐藤賢太郎

「楽しいドーム」長田良夫

「記録」株式会社博進堂

「寄り添う風車」斎藤春夫

「スパイラル」時崎庸二

「盆栽」佐藤賢太郎

「発掘」長谷川マリ子

「パン」古田浅吉

「鎮魂歌」小宮和巳

「変化」古田浅吉

SATOYAMA ART EXHIBITION

豊実に吹く風

間地紀以子

里山アート展が来年で14回を数えるという。よくも毎年、作品をクルマに積んで300kmも走って参加してきたものだと思う。何故に、華やかな報道も無い、特別の報償もない、観客が特別多いわけでもない、この地のアート展に通って来ているのかと、自問したことがかつてあった。かつて、と書いたのは今は私なりに答えが出つつあるからだ。

そして、その答えに繋がるのが、フクロウ会の皆さんの活動である。私が里山アート展に参加するよりかなり以前から、佐藤賢太郎さんを中心とするフクロウ会の皆さんは、遠く埼玉県から週末を利用してこの地豊実に通って来て、古民家を改修しギャラリーを作り、蔵を展示場にし、宿泊施設のみならずレストラン、亭、はてはパン焼き石窯まで作り、荒れて放置されていた畑を散策路にし、ビオトープを作り、思いつく限りのたのしい自由空間をイメージし、たぐいまれなチームワークで次々に計画を実現させてきた。どうして？　不思議なこと。

その後にスタートした里山アート展も、遅々たる歩みではあったものの、地元の小学校や地域の方々に受け入れて頂き、助けて頂きながら、今年はモロッコ・フェステイバル、昨年までは田んぼ演芸会にまで発展している。

アート展も作家のみならず、小学生や障害を持った方々やちょっとアートに興味を持った方や、フクロウ会の新進アーテイストなど、多くの方が参加して年々実り多いものとなっている。ふりかえれば以前からの私の持論、「アートは特別な人だけのものではない」が、いつの間にか此処豊実で実践されているのだ。野の花や木々のささやきに心がふるえ、空の変化や雲の流れ、川の音、鳥の声を美しいと感じる・・・。それがアートの芽生え。アートが生まれるはじめの一歩。

まず感じて、応える。何かを感じて、自分のものにして、出す。表現する。美術だけでなく、音楽も演劇も全ての表現活動に共通するワクワク感、ドキドキ感。里山アート展に参加して初めて作品作りに取り組まれた方は、この心の動きを実感されているのではないだろうか。この楽しさと喜びが一人一人をアーテイストにする。

今年は「モロッコ・フェステイバル」を皆で楽しんだようだが、昨年までの「田んぼ夢舞台まつり」も素晴らしい。踊る人、演奏する人、歌う人、観る人、子どもからお年寄りまで、いつの間にかみんながアートしている。会場係もお弁当やさんも。この田んぼの時間と空間全てがアートといえるのではないだろうか。数年前から里山アート展のDMハガキに「アートと生活」というキャッチフレーズが加わり、ひそかに私は「ケンタロサン、ヤッタネ」と嬉しくなった。

数億円と言われるゴッホの「ひまわり」も、画廊で売買される絵や彫刻も、それらも確かにアートの「一部」だ。だけどアートは私たちの考えをはるかに超えて、ふところが深く大きい。そしてアートは拒まない。誰でも何処でも、アートは生まれるし触れることが出来る。アートはいつも「ウエルカム」してる。

遠い昔、琵琶法師が語り、吟遊詩人が辻で唄い、漂泊の絵師は泊めてもらった寺の襖にお礼として絵をかき、踊り手は舞うことで人々にひとときの癒しを与え、次の村に旅を続けていった。日々の生活の疲れを癒すハレの時間、異空間を提供し、夢を残してまた次の土地に向かって行く。アーテイストは外から来てまた、去って行く風。

賢太郎さんとフクロウ会の皆さんは、「外からの風」だった。けれどもこの風は、この地に留まり続け、今もまた、新しい実りを約束し続ける。このコスモ夢舞台が県内外、海外も巻き込みつつ、里山アート展が13年も継続し、風を送り続けていくことを考えると、これからの活動に幸多かれと祈らずにはいられない。

豊実のコスモ夢舞台と里山アート展の時間と空間を体験した子どもたちや人々が、これまでよりほんの少しハイな気分で阿賀の風を感じ、空を見上げる時、アートはもうそこにある。アートと生活は繋がっていて、アートの中に生活があり、私たちはアートと一緒に生活しているのだから。

コスモ夢舞台賛歌

作詞 佐藤賢太郎　作曲 中島由美子　編曲 斉藤理恵子

1、友よ輝け　夢の舞台
この世に出会う　遥かなえにし
喜び語り　分かち合う友

2、友よ輝け　自然の舞台
汗を流して　無私の情熱
未来に続く　永久(とわ)の友と

3、友よ輝け　アートの舞台
笑顔(えがお)は力　出会う感動
本物目指せ　支え合う友

4、友よ輝け　コスモ夢舞台
時は今イザ　想いは実り
夢の館や　いのちの田圃

5、友よ輝け　白い舞台
歯をくいしばり　春を迎える
涙は宝　友は宝よ

協　賛

共和写真㈱／古澤屋／下越酒造㈱
福泉旅館／ほっとハウス／㈲江花商会
麒麟山酒造㈱／㈱博進堂／㈱巴山組／西興産㈱
いとう屋／ホテル角神／澤野広吉商店
澤野修事務所／㈲大清建設／リサイクル入倉
斉明エンジニアリング／実野屋

●主　催：NPO法人 コスモ夢舞台
●助　成：芸術文化振興基金
●後　援：新潟地域振興局／新潟日報社
阿賀町／阿賀町観光協会／阿賀町教育委員会
NHK新潟放送局／BSN新潟放送／ＮＳＴ
TeNYテレビ新潟／UX新潟テレビ21
●発　行：2016年12月30日
●発行人：佐藤賢太郎
●発行所：NPO法人 コスモ夢舞台
〒959-4304 新潟県東蒲原郡阿賀町豊実乙1036
TEL/FAX 0254-96-2003
●編　集：佐藤賢太郎
●印　刷：株式会社博進堂

http://www.cosmoyume.net/

M A P

TOYOMI
The Cosmo
dream stage

ART FRONTIER
THE 14TH SATOYAMA ART EXHIBITION